

意見募集結果公表資料(個別案件用)

案件名	亀岡市観光振興ビジョン～保津川下り乗船場周辺エリア・トロッコ亀岡駅周辺エリア～案	公表日	令和3年3月1日
<p>上記案件について、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。 お寄せいただいたご意見及びこれに対する亀岡市の考え方を以下のとおり公表いたします。</p>			
意見募集期間	令和3年1月15日(金)～2月12日(金)	意見数	16項目
意見の要旨		亀岡市の考え方	
<p>P4 第1章計画策定にあたって 1.計画策定の目的 P6 第2章本市観光の現状と課題 1.上位計画等の整理(第5次亀岡市総合計画「亀岡まるごとスタジアム構想」の策定と推進)</p> <p>ラフティングは世界的にもメジャーなアクティビティであり、自然系アクティビティでは国内最多の集客数です。保津川においても過去年間約35,000人の利用客があり、修学旅行生のラフティング体験を除く、一般参加者の利用では国内1位の利用者数です。(年代別:10代5%、20代44%、30代19%、40代19%、50代以上13% 地域別:大阪35%、京都20%、兵庫15%、和歌山20%、奈良5%、その他5%) また、亀岡市はその他にも様々な自然の観光資源があり、コロナウイルス感染症の影響もあってキャンプなどのライトユーザーからヨガやラフティング、SUP、カヌー体験などのレジャー層(ライトユーザーの分類に入る)、そしてトレッキングや登山などのミドルユーザーまで幅広い層に体験型レクリエーションを提供し集客することが期待できます。</p>		<p>体験・滞在型観光の推進を図るため、観光客の動向を見極めつつ地域観光資源の魅力PRやスポーツ観光の推進を図って参ります。</p>	
<p>P6 第2章本市観光の現状と課題 1.上位計画等の整理(第5次亀岡市総合計画)</p> <p>本社を大阪府枚方市に置き、大阪市内の企業や顧客、又は全国各地で自社の営業を行う際の実感として自然豊かで優れたアウトドア体験のポテンシャルを持つ亀岡市ですが、アウトドア体験が出来るイメージは少なく「街」としてのイメージが強いように思います。 しかし、「京都の保津川」の知名度は全国的にも非常に高く、当社の事業を説明する際、「亀岡市でラフティング(又はアウトドア体験)を運営している」は通じづらいのですが、「京都の保津川でラフティングを運営している」と説明すると理解を得られ、興味を示されます。 我々アウトドア(ラフティング)事業者が、観光「亀岡」のPRとして行える案は、「保津川」の知名度を有効に活用し、各事業者に「亀岡」のキーワードを付随してもらうことです。例:「保津川ラフティング」⇒「亀岡保津川ラフティング」「京都亀岡保津川ラフティング」、「保津川下り」⇒「亀岡保津川下り」と名称変更 「保津川下り」など商標を取得している場合や検索順位への影響を懸念する場合は、WEBサイトや案内資料の説明文に亀岡の名称を積極的に使用してもらいます。 現在は大手ポータルサイトでの販売が大半を占めており、ターゲットも全国、世界と「保津川」のネームバリューをうまく活用すれば訴求力は大きなものと思います。例:当社の契約ポータルサイト(アンビュー・そとあそび・じゃらん・アクティビティジャパン・ブッキングドットコム・エアビーアンドビー)</p>		<p>御意見のとおり、本市の観光推進には「亀岡」を広く認知いただく工夫が必要だと考えており、シティプロモーションに力を入れて参ります。また、そのためには事業者のみならずとの連携により訴求力を高めていくことが重要だと考えております。</p>	

意見の要旨	亀岡市の考え方
<p>P6 第2章本市観光の現状と課題 1.上位計画等の整理(第5次亀岡市総合計画 体験・滞在型観光の推進 スポーツ観光の推進) P19 第3章観光振興の方針の設定 3.基本戦略 (2)トロッコ 亀岡駅周辺エリア ③魅力的な観光資源の活用による市内滞在時間の延伸</p> <p>コロナ前・後とアウトドアの人気は年々増加傾向しており、この市場動向と顧客ニーズにうまく対応し、本市の観光客数を伸ばすためにも機会損失を発生させないよう受入体制の強化が早急に必要となります。一例：月読橋から宇津根浜までのSUP体験コース(2017年から開始)SUPとヨガを組合せエクササイズ要素を取り入れることでレジャーだけでなくスポーツとしての要素も加わり、SUPやSUPヨガはラフティングやカヌーの次に人気となるスポーツとして普及し始めています。</p>	<p>多くの観光客が訪れるエリアの機能強化が全体の満足度の向上に繋がりがさらなる観光誘客を促進すると考えます。</p>
<p>P6 第2章本市観光の現状と課題 1.上位計画等の整理(第5次亀岡市総合計画 体験・滞在型観光の推進 スポーツ観光の推進) P19 第3章観光振興の方針の設定 3.基本戦略 (2)トロッコ 亀岡駅周辺エリア ③魅力的な観光資源の活用による市内滞在時間の延伸</p> <p>ラフティングやカヌー・カヤックなどの自然体験は様々な客層(家族層から成人グループ)に受け入れられ、アウトドア・アクティビティの定番となっていますが、2020年度に発生した新型コロナウイルス感染症拡大のため、4月から7月まで自粛休業を行い、再開後も自粛ムードや感染の懸念から客足は回復せず、一般ユーザーの集客は限定した日数(お盆夏休み期間・9月シルバーウィーク)で若干回復するも前年比約70%低下しました。しかし、一方「三密」回避の有効手段がとれる「屋外開放空間(自然)」でのアウトドア体験(ラフティング・カヌー)の関心は高まり、海外や沖縄、東京など遠方への旅行が困難な修学旅行が近場での教育旅行の手段として、昨年秋より新たな需要として動き始めました。(※2020年9月から11月まで約30校の受入れ実績)</p> <p>コロナが収束すれば、修学旅行はまた海外や沖縄などに戻りますが、これを機に教育旅行での「亀岡のアウトドアの魅力」を提案し、新しい観光の流れを亀岡に作っていければと考えています。(※修学旅行でのラフティング体験は全国的に年間10万人(推測)ちかか体験している観光事業です。)</p>	<p>マイクロツーリズムという言葉に代表されるよう、新型コロナウイルス感染症は人々の旅行・観光に対する考え方に少なからず影響を与えたと考えております。変化した観光ニーズを市民や事業者のみなさまと柔軟に捉えにぎわい創出に繋げて参りたいと考えます。</p>
<p>P10 保津小橋 ・保津小橋ですが自動車動線というには、幅が狭すぎて一般市民が自動車で通過できるのか疑問です。少し拡張した方が良いです。</p>	<p>御意見のページの計画図は「保津川かわまちづくり計画」のもので、本ビジョンの内容に直接関係しない御意見と思われませんが、今後の観光振興、かわまちづくり計画の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>

意見の要旨	亀岡市の考え方
<p>P10 左岸の保津小橋付近(じゃこ池) ・現状、無料のオートキャンプ場になってますが、そのままでもいいと思います。あえて、オートキャンプ場を壊して湿地に整備し直す必要はないと思います。</p>	<p>御意見のページの計画図は「保津川かわまちづくり計画」のもので、本ビジョンの内容に直接関係しない御意見とされますが、今後の観光振興、かわまちづくり計画の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>
<p>P10 サイクリングロードと散策路をつくる ・ルートは馬堀駅～トロッコ亀岡駅～保津川右岸～サンガスタジアムの足湯～保津橋～保津川左岸～保津小橋～トロッコ亀岡駅</p>	<p>御意見のページの計画図は「保津川かわまちづくり計画」のもので、本ビジョンの内容に直接関係しない御意見とされますが、今後の観光振興、かわまちづくり計画の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>
<p>P10 熱気球の乗り場をつくる ・熱気球の民間企業を誘致し夏休み等の多客期に有料の熱気球の体験搭乗をしてもらう。</p>	<p>御意見のページの計画図は「保津川かわまちづくり計画」のもので、本ビジョンの内容に直接関係しない御意見とされますが、今後の観光振興、かわまちづくり計画の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>
<p>P10 右岸の遊び場やドッグラン ・有料のキャンプ場をつくる。ドッグラン併設のため愛犬家を呼び込める。収益の一部を亀岡盲導犬学校へ寄付する。洪水時、水没可能性地区だが冒険遊びには、子供が楽しめる工夫を期待しています。民間施設に業務委託してはどうでしょう。</p>	<p>御意見のページの計画図は「保津川かわまちづくり計画」のもので、本ビジョンの内容に直接関係しない御意見とされますが、今後の観光振興、かわまちづくり計画の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>
<p>P10 2018年10月に亀岡市と包括協定を締結した株式会社モンベルが主催しているイベント シーツーサミット大会の実施 ・コースは、スタート地点は、千代川町の川の駅 亀岡→(カヤック・カヌー・SUPで大堰川を下る 約6km)→保津川下り乗船場手前の右岸→(自転車)→亀岡運動公園→湯の花温泉→谷性寺→亀岡市交流会館→月読橋→出雲大神宮→七谷川野外活動センター→(徒歩にてハイク)→和らぎの道→牛松山頂上→牛松山登り口→ゴール地点はサンガスタジアム横の駅北広場(ここで表彰式実施)。 前日の講習会は、ガレリア亀岡で実施。 千代川町の川の駅 亀岡～保津川下り乗船場手前の右岸まで5か所程浅い場所があるので少し川底の掘削工事が必要。 ちなみに下記が今年2021年の開催予定です。 大会情報&エントリー SEA TO SUMMIT アウトドアスポーツを通じて自然の循環を体感する環境スポーツイベント。 京都府では2015年～2017年までは由良川・大江山大会が実施されました。</p>	<p>御意見のページの計画図は「保津川かわまちづくり計画」のもので、本ビジョンの内容に直接関係しない御意見とされますが、今後の観光振興、かわまちづくり計画の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>

意見の要旨	亀岡市の考え方
<p>P15～17 第3章観光振興の方針の設定 2.新たな観光拠点の対象エリア (1)保津川下り乗船場エリア ……桂川河川改修事業との整合を図りつつ、保津川かわまちづくりや嵯峨野トロッコ列車、そして京都スタジアム等と連動したにぎわいの創出を促進します。<u>また、現在改修計画のある新・商工会館(仮称)の新たな観光拠点機能にも期待します。</u> (下線部を追記)</p>	<p>新・商工会館(仮称)の改修計画について、詳細は承知しておりませんので追記は致しませんが、施設の観光拠点機能・情報発信機能に期待し、連携してにぎわい創出を図りたいと考えます。</p>
<p>P15～17 第3章観光振興の方針の設定 3.基本戦略 (1)保津川下り乗船場エリア ①情報発信力の強化 ……市内での食事や他の観光スポットへ足を運ぶきっかけづくりを図ります。<u>また、新・商工会館のコンセプトである来訪者に対する情報発信拠点構想などを活用して、旅先で経験した情報を個人が……</u> (下線部を追記)</p>	<p>新・商工会館(仮称)の改修計画について、詳細は承知しておりませんので追記は致しませんが、施設の観光拠点機能・情報発信機能に期待し、連携してにぎわい創出を図りたいと考えます。</p>
<p>P18 第3章観光振興の方針の設定 3.基本戦略 (2)トロッコ亀岡駅周辺エリア ①情報発信力の強化</p> <p>トロッコ亀岡駅で下車する観光客(一昨年までは外国人)の方は、山本浜のようにトロッコや保津川を背景に感じる場所が好きなようでラフティングの際に頻繁に見かけます。山本浜はBBQでも人気があり、観光客が自然とSNSで投稿したくなるような滞在しやすい環境を整えれば「人が自然と集まってくる場所」を情報発信の場として活用でき、最小限のコストでロコミによる情報発信の効果を最大限に発揮できると思います。</p>	<p>SNSは特に若年層の方々への情報発信ツールとして非常に有効だと考えています。御意見のとおり、サービスを提供する側だけではなく、受け手側がダイレクトに拡散したくなる魅力というものを創出・誘導・発信していく必要があると考えます。</p>
<p>P19 第3章観光振興の方針の設定 3.基本戦略 (2)トロッコ亀岡駅周辺エリア ④交通利便性の向上</p> <p>すでにある篠地区のコミュニティバスが、トロッコ亀岡駅近くの鶴ノ川バス停を経由している。このバスをトロッコ駅に乗り入れるか、鶴ノ川バス停への案内表示と時刻表表示で誘導して、JR駅へのアクセスとして活用すれば良い。 また、このコミュニティバスを保津川下り乗り場まで延長して、トロッコ駅～保津川下りのバスと一本化すると効率的になる。 枚方高槻からのバスも、トロッコ駅や保津川下り乗り場まで経由して運行すれば、利用者はそれなりにいると思う。このルートで復活すると良い。</p>	<p>今後、具体的施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>

意見の要旨	亀岡市の考え方
<p>P20 第3章観光振興の方針の設定 5.対象エリアに誘導する建築物の用途 (2)トロッコ亀岡駅周辺エリア ②観光事業施設</p> <p>今や観光と環境維持は一体としてなされており、周辺住民の生活を脅かすことはなく地域と共存し発展しています。それは全国のアウトドア事業者が実証しており、当社も長年かけ多くの実績を積んできました。亀岡市は本当に素晴らしい自然や里地里山の田園風景がたくさん存在します。亀岡が持つ自然資源の可能性を最大限に発揮できるよう、当社が事業所登録を行いゲストハウスとして運営している千歳町や保津川の辺りにある保津町、水辺のアクティビティに適した緩やかな流れと開けた景観の月読橋周辺から宇津根浜区間など自然体験や滞在型観光に適する多くの地域もぜひ亀岡市観光振興ビジョンのエリアに加えていただければ、本市の観光の魅力はさらに増すことと思います。</p>	<p>本ビジョンでは市内において特に多くの観光客が訪れており、ゲートウェイ機能の強化として観光拠点整備が必要と考えられるエリアを対象としており、現時点でエリアの追加や拡大は考えておりません。</p>
<p>タイトルのトロッコ亀岡駅周辺エリアより少し外れますが、保津川かわまちづくり会議では、保津小橋と山本浜を公園化することになっていると思いますが、その間の手の入らない野原は放棄地のように雑草が生えています。その年谷川、西川、保津川霞堤に囲まれたところを活用するのはどうでしょうか。</p> <p>①少し土を掘り下げて池を作り、農業用水を引きこんで水を通すようにすれば、コウノトリが住み着くようになるのではないのでしょうか。豊岡市でのコウノトリの増加があると思うので、外へ出て来ていると思います。なので、条件さえ良ければ住み着くと思います。小魚やドジョウ等少し放流すればよいのでは。管理はボランティア団体に任ず。コウノトリが馬路町池尻の平の沢池や上池に飛来しているので、保津川畔に水辺が出来れば両方に住み着き、観光スポットになると思われるが？</p> <p>②①がダメなら、若草山の山焼きのように雑草に火をつけて燃やすのもいいかも。</p>	<p>本ビジョンの内容に該当する御意見ではないと判断させていただきます。</p>